

AMJ 北京駐在員事務所の紹介

～北京支店の呉塵君～

呉塵君（ウーチェン）は AMJ 北京支店の人気者だ。100 キロの巨体を揺さぶりながらディスコで踊る姿は頭に焼き付いて夢の中に出てくるほどの強烈な個性である。

北京外国語大学日本語学科の秀才で北京事務所に入ってからまだ3年目である。高校のときから日本の PC ゲームが大好きで日本語のゲームソフトを理解する為に日本語を本格的に勉強し始めたと言う秋葉系（*）青年である。

一昨年の夏の終わりに内モンゴルで行われた希土類会議の時のエピソードである。中国の希土類学会のお歴々が参加して包頭郊外の草原にパオを設けて大宴会が行われた。日本人の賓客も招待されて大きなパオの中で30人以上がモンゴル式で白酒を酌み交わし、楽団つきで歌えや踊れやの大宴会である。モンゴル式の民族衣装に身を包んだ若いお嬢さんが白いフリルつきの絹の布に銀杯を3杯乗せて白酒を賓客全員に振舞うのだ。50度もある白酒を3杯も飲み干すのは大変な事である。宴もたけなわになって来た時に半裸の美女が2メートルの大蛇を携えて現れた。酩酊をしていた我々も流石にギョツとした。予想しがたい展開であった。



希土類合金の合弁設立の記念写真で中央に



包頭希土類学会に出席する呉塵君

半裸の美女はおもむろに大蛇を首に巻いて妖艶な眼差しで私に向かって手招きするのだ。私は思わずとなりに座っていた呉塵君お願いして大蛇のお供は遠慮させていただいた。私は何が嫌いだといって爬虫類が生理的に受け付けない体質である。

すると、呉塵君は何気ないしぐさで楽しそうに大蛇を言われるがままに首に巻いて半裸の美女と一緒に踊りだしたのだ。彼のリズム感が抜群で、様になっているため場内はやんやんやんやの大喝采の渦と化した。半裸の美女のベリーダンスも最高

潮に達しようとしたときだ。何と呉塵君は大蛇の尻尾をむんずと握って、あろう事か大蛇をやおら空中でグルグルと振り回し始めたのだ。しかしその時にこのような悲劇が起こるとは誰が予想しえたであろうか？

呉塵君の手がすべり大蛇君は遠心力で吹っ飛んだ。客席の前まで飛んできた蛇を拾いにきた呉塵君はバランスを崩し足元がふらついて何と大蛇を踏みつけてしまったのだ。パオの中はパニック状態となった。お客さんは後ずさりしながらも遠巻きに動きの鈍くなった大蛇君の様子を心配そうに見ていた。一瞬の出来事であったが客の酔いはすっかり醒めてしまった。音楽は止まり美女と楽団は大蛇を引きずりながら退場する事になった。

9月初旬の内モンゴルは空気が乾いていて昼間は暑くとも、草原に吹き始める夜風はひんやりしてくる。内モンゴルの「中秋の名月」は近い。

* 北京の「中関村」は電気街でまさに東京の秋葉原と同じで AMJ 北京支店は比較的近いロケーションにある。